

# 1 命題論理

命題 3・1 いくつかの等式の証明

第一分配律

$$v(A \wedge (B \vee C)) = v((A \wedge B) \vee (A \wedge C))$$

左辺が  $T$  ということは、

$$v(A) = T \quad \text{かつ} \quad v(B \vee C) = T$$

すなわち、 $v(A) = T$  かつ “ $v(B) = T$  または  $v(C) = T$ ”

言い換えると、 $v(A) = T$  であり、また、 $v(B)$  と  $v(C)$  の少なくとも一方が  $T$ 。

ゆえに、“ $v(A) = T$  で、かつ  $v(B) = T$ ” であるか、または、 $v(A) = T$  で、かつ  $v(C) = T$ ”

これを記号化すると、右辺になる。

真・偽

$$v(A \vee \neg A) = T$$

$v(A \vee B) = T$  になるのは、(1)  $v(A) = T$  であるか、または (2)  $v(\neg A) = T$  のときである。 $v(A) = T$  ならば (1) のケースである。 $v(A) = F$  ならば、 $v(\neg A) = T$  なので、(2) のケースである。いずれにしても (1),(2) のどちらかは成り立つ。ゆえに  $v(A \vee \neg A)$  は恒に  $T$  である。

$v(X) = F$  のとき、 $v(A \vee X) = v(A)$

$v(X) = F$  とする。 $v(A) = T$  のとき、 $v(A), v(X)$  の少なくとも一方が  $T$  という条件が成り立つので、 $v(A \vee X) = T$ 。 $v(A) = F$  のとき、 $v(A), v(X)$  の両方とも  $F$  なので、 $v(A \vee X) = F$ 。いずれにしても、 $v(A)$  と  $v(A \vee X)$  はつねに等しい。

命題 3・3 について

この命題は大事である。論理結合子 4 個のうち、 $\neg$  と  $\wedge$ 、または  $\neg$  と  $\vee$  のそれぞれ 2 個で十分であることが分かる。

いくつか証明する。

$$v(A \wedge B) = T \Leftrightarrow v(A) = T \quad \text{かつ} \quad v(B) = T$$

$$v(\neg(\neg A \vee \neg B)) = T \Leftrightarrow v(\neg A \vee \neg B) = F$$

$$\Leftrightarrow v(\neg A) = F, v(\neg B) = F \Leftrightarrow v(A) = T \quad \text{かつ} \quad v(B) = T$$

$$v(A \Rightarrow B) = F \Leftrightarrow v(A) = T \quad \text{かつ} \quad v(B) = F$$

$$\Leftrightarrow v(A) = T, v(\neg B) = T \Leftrightarrow v(A \wedge \neg B) = T \Leftrightarrow v(\neg(A \wedge \neg B)) = F$$